

# 東京経済大学大学院 経済学研究科 入学試験 (2023年度 1期入試)

課 程	修士課程
入試区分	一般入試
試験科目	理論経済学
出題意図	志願者本人が希望する専修科目と専修科目以外の2科目に関して、学士レベルでの専門的な知識及び理解力、論理的な思考力を問う問題である。
解答例	<p>特定の解答に誘導し、筆記内容が画一的になると、筆記試験が意図する思考・表現力、創造性等の把握が困難になるため、解答例は公開せず、解答のポイント（採点基準）を公表しております。</p> <p>&lt;解答のポイント（採点基準）&gt;</p> <p>主に以下の点を評価対象とする。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 出題意図を念頭に置き、設問の内容を把握できていること。</li><li>(2) 設問に対する解答に必要となる、専門分野に関する学士レベルの専門的な知識を修得できていること。</li><li>(3) 設問内容と上記知識との関係を明確に認識できていること。</li><li>(4) 設問に対する解答を、上記の認識に基づいて論理的に行えていること。</li><li>(5) 上記の諸点を無理なく読み取れる解答であること。</li></ol>

※ 公開している入試問題等について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

2023年度東京経済大学大学院経済学研究科・修士課程

一般入試1期入学選考試験問題

【専門科目：理論経済学】

(試験時間：90分)

2022年10月8日(土)実施

東京経済大学大学院経済学研究科

---

※解答は別紙の解答用紙に記入すること。

以下の3つの問題から2つを選択して解答しなさい。

問題1 消費者1人と企業1社からなる一般均衡モデルを記述しなさい。そこでは、消費者と企業はプライス・テイカーであると仮定し、消費者の効用最大化問題と企業の利潤最大化問題を定義すること。さらに、一定の仮定の下でワルラスの法則が成立することを示しなさい。

問題2 同質財を供給する2企業(企業1と企業2)からなる複占市場において、企業1の費用関数が  $C_1(x_1) = 4x_1$ 、企業2の費用関数が  $C_2(x_2) = mx_2$ 、逆需要関数が  $P = 16 - 2(x_1 + x_2)$  であるとする。ただし、 $x_1$ は企業1の供給量、 $x_2$ は企業2の供給量、 $P$ は市場価格であり、 $0 < m < 16$  である。このとき、

- (1) 企業1と企業2の最適反応関数を求めなさい。
- (2) クールノー均衡における企業1と企業2の供給量がともに正になるような定数  $m$  の値の範囲を求めなさい。
- (3) 複占市場の均衡概念としてのクールノー均衡の問題点について、あなたの意見を述べなさい。

問題3 IS 曲線と LM 曲線を定義しなさい。さらに、政府支出  $G$  の増加が利子率  $r$  の上昇をもたらさないのはどのような状況であるか、IS 曲線と LM 曲線を用いて説明しなさい。